

特定医療法人誠仁会

大久保病院だより

No.
32
平成31年
1月10日

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078(935)2680 FAX078(935)2684

Post introduction

部署紹介

2階西
緩和ケア病棟

2階西病棟(緩和ケア病棟)は、全室個室(18床)で、フロアも広く、設備的に院内で一番明るくきれいな病室です。

緩和ケア病棟という言葉を知って「治療が出来なくなった人が入る場所」「死を待つ場所」といった暗いイメージを抱く人もいるのではないかと思います。緩和ケアを受けている人の多くは、死と向かい合って生きていますが、末期の病気を告知されたからといってそこで人生が終わるわけではありません。患者様の心と身体の苦痛を緩和し、最後までその人らしく生きるためにケアを提供させていた



だいています。「ここに来ることができて良かった」とおっしゃる患者様・家族様の言葉を糧に、スタッフ一同、日々ケアに励んでいます。

緩和ケアについてご質問がございましたら、地域医療連携室までご連絡ください。



今年も毎年恒例のクリスマス会を開催いたしました。

普段外来患者様にお待ちいただいている待合ホールにて実施し、短い時間ではありましたがクリスマスの雰囲気を味わっていただきました。

今年には谷水薬局長のフルーツ演奏に始まり、ゲストとしてお越しいただいたボーカルグループのセッションナーナさんも素敵

なクリスマスソングを披露して下さいました。今年は楽器や馬の鳴き声なども交え、とても楽しいメドレーでした。



また、堀医師によるギターの弾き語りもあり、「川の流れのように」では、会場から一緒に歌う声も聞こえてきて楽しい雰囲気に包まれました。

最後には、山村院長の響き渡る歌声に初めて来られた方も感動されていました。会場全体はクリスマスの音色に包まれ、皆でクリスマス気分を味わいながら有意義な時間を過ごしました。

来年も皆様にお楽しみいただけるクリスマス会を開催したいと思います。ご来場いただいた皆様、並びにご出演の皆様、ありがとうございました。



特定医療法人 誠仁会
大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seiinkai.or.jp/okubo/index.html>



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
②のりば 19「山手台」行き
③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分



新年のご挨拶

地域医療連携室室長 **古谷裕道** 医師

平成最後の正月を迎え、今年も実り多い年であるよう祈願されたことと思います。

医療経済事情は厳しく、在宅医療に重きを置き、病院の役目として病院周囲の住民の包括的健康管理を行うことを求められております。救急医療、専門性の充実、慢性疾患のフォロー、病診連携、病病連携、医療関連施設との連携をより綿密に行っていくことが必要不可欠です。

救急医療を充実させるため、当院では循環器専門医師、脳外科専門医師の常勤医の増員を図り、365日24時間対応ができる体制を目指して、診療体制の充実を計っております。

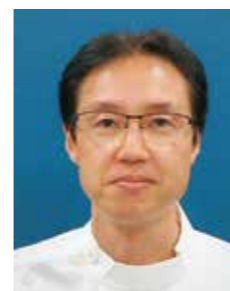
また、できるだけ診療がスムーズに行えるように、相談窓口の設置、地域医療連携室の多職種の配置、増員を行ってきました。「緩和ケア病棟ってなに?」「どうすればいいの?」等なんでも構いません。地域医療連携室にお電話くださればと思っております。

今年もどうぞ宜しくお願い致します。

地域医療連携室一同



新任医師紹介



脳神経外科 **宮本宏人** 医師

平成7年に兵庫医科大学を卒業後、神戸大学関連施設で研修を積み、大学院での研究生生活を経て、約16年間姫路の急性期病院で勤務して参りました。急性期医療に携わりつつ、亜急性期～慢性期(回復期～維持期)医療の大切さを学びました。

この度ご縁があり大久保病院へ赴任すること

になりましたが、当院は急性期病床だけでなく療養型・緩和ケア病床を有しております。地域の方が安心して暮らすために欠かせない病院であると思っております。

今、少しでも地域医療にお力添えが出来ればという気持ちでおります。

何か気になることがありましたら、何なりとご相談ください。





循環器内科 「心臓カテーテル検査・治療」について

循環器内科 佳山 智生 医師

平成29年度のわが国の3大死因は、1位が悪性新生物(がん)、2位が心疾患、3位が脳血管障害であると厚生労働省は報告しています。

心疾患の中でも圧倒的に多いのは、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患です。心臓は1日に約10万回休むことなく拍動するポンプで、このポンプを動かすエネルギー源が「冠動脈」です。冠動脈は心臓の表面を流れており、冠動脈が心臓の細胞に栄養を与えることで心臓は動いています。年をとるにつれて、この冠動脈の血管壁にコレステロールがたまり、動脈硬化が進むと血管の内側が狭くなります。心臓に十分な栄養を与えられない程血管が狭くなると、心臓はSOS信号として「胸の圧迫感」や「胸の締め付け感」を感じるようになります。これが狭心症で、症状は2,3分、長くても15分以内に消えてしまいます。さらに冠動脈が狭くなり、「完全にふさがって血液が通らない」状態になると、その部分の心筋細胞が壊死します。これが心筋梗塞です。ふさがってしまった血管を早期に再開通しないと、心筋壊死はどんどん広がります。また、心筋壊死により不整脈が起こると生命に関わります。

当院では、こういった狭心症や心筋梗塞に対して心臓カテーテル検査およびカテーテル治療を行っており、施行件数は年々増加しています。当院ではこれらの手技は主に、身体的負担が少なく入院日数が短い「手首から」の方法で行っています。

「手首から」行うことで術後早期に歩行が可能であることや、穿刺部の痛みを軽減できるメリットがあります。また当院では、心臓カテーテル治療以外にも下肢の動脈に対してもカテーテル治療を行っています。下肢の血管に動脈硬化がすすみ、血管が狭くなったり詰まったりして十分な血流が保てなくなる病気を「閉塞性動脈硬化症」といいます。閉塞性動脈硬化症の初期症状は「足先の冷え」で、症状が進行すると間欠性跛行と呼ばれる「歩行時におしり、太もも、ふくらはぎなどにだるさや痛み」が出現します。さらに進行すると、安静時にも足の痛みの症状が出現し、重症になると壊疽を起こし、足を切断しなければならぬケースもあります。

心臓や下肢の事でお困りの方は、循環器内科にご遠慮なくご相談ください。



循環器チーム
後列中央:畑 医師
左側:藤田 医師
右側:佳山 医師

大久保北健康まつり



木戸良明教授

11月10日(土)、第24回大久保北健康まつり(主催:大久保北コミュニティ・センター、後援:大久保病院)が開催されました。今年も天候に恵まれ11月とは思えない温暖な気候の中、約340名の地域の方にお越しいただきました。

今回の記念講演では神戸大学大学院保健学研究科木戸良明教授に「認知症を学び、予防を目指そう〜コグニケア※〜」をテーマに認知症と糖尿病との関連などわかりやすくご講演いただきました。

講演後は各コーナーがスタート。抽選に当たった方への動脈硬化の測定や、整理券を手に入れた方の骨密度測定は、例年どおり多くの方が参加されていました。体力測定コーナーでは日頃からの運動の成果で、実年齢よりかなり若い結果が出た方もおられました。

ロコモ度テスト・肥満度・血圧測定・尿検査・アロマ体験・介護相談コーナーも多くの方に参加いただきました。医療相談コーナーは消化器内科医・腎臓内科医・整形外科医が担当し、相談内容により専門の医師がアドバイスを行いました。

短い時間ではありましたが、皆様の健康への関心を高めるきっかけになれば幸いです。

※コグニケア(Cogni CARE)とは、認知症予防が必要とされる60~70歳代に、運動や認知機能トレーニングなど「多面的に予防にいいもの」に、取り組むプログラムの総称です。神戸大学の研究者たちが、最先端の研究を基盤に考案しました。



緩和学習会

「がん相談支援センター」という相談窓口があるのをご存知ですか?

「がん相談支援センター」は、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関するご相談窓口です。実際にどんな相談を聞いていただける所なのか知識を深めるために、地域のケアマネージャー等の専門職の方へ向けて緩和学習会を開催しました。



講師として県立がんセンター相談室室長の橋口周子先生をお招きして、実際の相談内容や現

状についてお話しいただきました。がん治療の情報だけでなく、がん患者やその家族関係の相談や、院外の患者や医療関係者からの相談にも対応されており、幅広い相談窓口であることに感銘を受けました。また、就労支援などの相談も増えているなど、多岐に渡る相談が寄せられていることも分かりました。

後半には、当院の緩和ケア病棟の松田師長からも当院の病床利用状況や取り組みなどを報告いたしました。緩和ケア病棟を有する病院として、より相談しやすい環境を提供できるように仕組みを構築すると共に、職員個々の知識向上のために自己研鑽の必要性を感じる有意義な会となりました。

次回の緩和学習会も新たなテーマを検討し発信させていただきますので、よろしくお願いいたします。



橋口周子室長